

# 和文化教育学会 第二十二回 和文化教育全国大会 京都大会



千玄室大宗匠染筆



## 『グローバル化する日本文化の魅力と教育課題—京都からの発信—』

### 【1/24 (土)】研究・実践発表 基調講演 シンポジウム

受付 《 9:00～ 》  
開 会 行 事 《 9:30～ 9:40 》  
和 -平和へのメッセージ 《 9:40～10:00 》  
研究・実践発表 《 10:10～11:50 》  
聞光館 (もんこうかん)  
呈茶 (茶道・煎茶道) 《 11:50～12:50 》  
理 事 会・昼 食 《 11:50～12:50 》  
総 会 《 12:50～13:10 》  
基 調 講 演 《 13:20～14:30 》

シンポジウム 《 14:40～16:50 》  
光風館ホール

開 会 行 事 《 16:50～17:00 》

光風館 (こうふうかん) 2階ロビー

大会実行委員長挨拶 学会会長挨拶

千玄室宗匠 追悼

光風館ホール

第1分科会 251 教室 第2分科会 252 教室 第3分科会 253 教室

第4分科会 353 教室 第5分科会 354 教室 第6分科会 352 教室

聞光館 1階 茶室

聞光館 (もんこうかん) 大会議室

光風館 (こうふうかん) ホール

グローバル化する日本文化の魅力と教育課題—京都からの発信—

池坊 専好 (池坊次期家元)

グローバル化する日本文化の魅力と教育課題—京都からの発信—

司 会：谷本 寛文 (京都光華女子大学/副学長)

岡崎 均 (大阪体育大学/和文化教育学会理事長)

シンポジウム講演者：池坊 専好 (池坊次期家元)

シンポジスト：河村 晴久 (能楽師 観世流 シテ方)

ランディー・チャネル (裏千家教授)

北村 昌江 (学会員/ランゲージ・アーツ研究&アカデミー)

コメンテーター：梶田 叡一 (前和文化教育学会会長/兵庫教育大学名誉教授)

中村 哲 (和文化教育学会会長/兵庫教育大学名誉教授)

大会事務局長挨拶 学会理事長挨拶

光風館ホール

次期大会開催代表挨拶

### 【1/25 (日)】巡検：大徳寺東門 (現地集合)・山門 (金毛閣)、聚光院の参拝

・裏千家：重要文化財の茶室などの拝観と一服のお茶をいただきます。

主 催 第22回和文化教育全国大会 (京都大会) 実行委員会 和文化教育学会

後 援 文部科学省 京都府教育委員会 京都市教育委員会 京都新聞 KBS 京都

【和文化教育学会事務局】〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町 38 京都光華女子大学 谷本 寛文

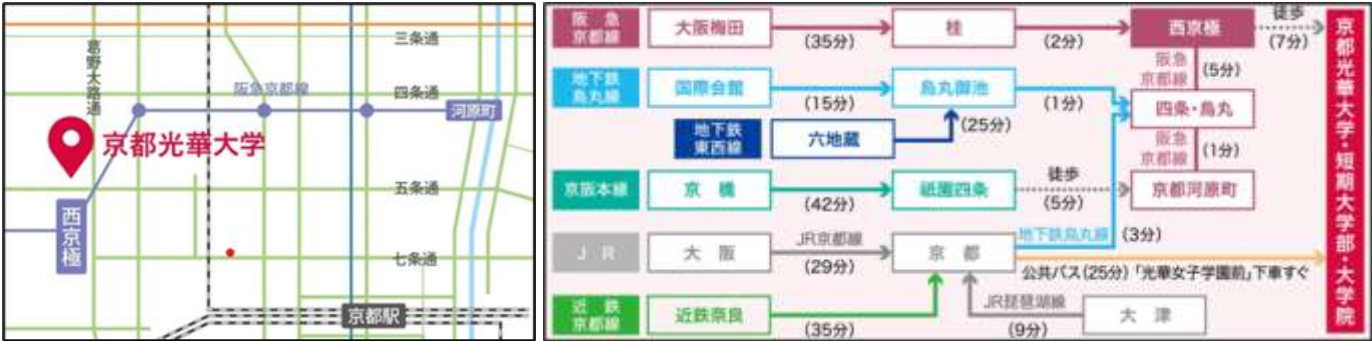
令和 7(2025) 年度 第 22 回和文化教育全国大会（京都大会）要項

1. 開催趣旨 現代の日本文化は、伝統性と革新性の融合を特徴とし、グローバル化社会において独自の価値を発揮している。日本文化がグローバル化の中で大きな魅力を持ち得る一方、教育という視点からは様々な課題を抱えている状況にある。例えば、「自国文化を理解し、異文化と比較しつつ、多言語で発信できる能力」等が挙げられる。日本文化をグローバルに発信する教育実践は、次世代に必要な創造的・協働的資質を育成する基盤ともなり得るものであり、日本文化の魅力を再考しつつ、教育課題解決の糸口を見いだすものとする。

2. テーマ グローバル化する日本文化の魅力と教育課題—京都からの発信—

3. 主催・後援 主 催 第 22 回和文化教育全国大会（京都大会）実行委員会 和文化教育学会  
後 援 文部科学省 京都府教育委員会 京都市教育委員会 京都市教育委員会  
京 都 新 聞 KBS 京都

4. 開催地及び会場 京 都 光 華 女 子 大 学  
〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町 38



5. 日 程 【1 月 24 日（土）】 研究・実践発表 基調講演 シンポジウム

9:00	9:30	9:40	10:10	11:50	12:50	13:20	14:40	16:50
	-9:40	-10:00	-11:50	-12:50	-13:10	-14:30	-16:50	-17:00
受付	開会行事	開会アトラクション 千玄室宗匠 追悼	研究・実践発表 第1分科会ー第6分科会	昼 食 呈 茶	総 会	基調講演 文化価値創造を意図する文化資産と教育 の融合	シンポジウム 文化価値創造を意図する文化資産と教育 の融合	閉会行事
光風館2階ロビー	光風館ホール	光風館ホール	間光館	理 事 会 間光館 大会議室	光風館ホール	光風館ホール	光風館ホール	光風館ホール
				煎茶道部による接待 間光館1階				

※グローバル文化シンボル「鯉のぼり」プロジェクトコーナー 光風館2階ロビー 受付付近

【1 月 25 日（日）】 巡検：



6. 内容

(1) 研究・実践発表《 10:10～11:50 》「発表 15 分 質疑応答 5 分」

第1分科会 司会：

①

伝承的わらべうた遊びにみる幼児の創造的表現の展開—母子の相互作用に着目して—

廣畑 まゆ美（兵庫教育大学大学院連合学校教育研究科）

②

神話は宝箱—神話から受け継がれるもの—

江崎 圭伊子（川崎市立小杉小学校）

③

公立小学校における「和太鼓伝承」の実践からみえるもの

山崎敏哉（世田谷区立山崎小学校）

④

子どもが和太鼓に親しむために必要な指導者のスキル—幼児・小学校教育を学ぶ学生の実践を通して—

土師 範子（中国学園大学子ども学部子ども学科）

⑤

『浮世絵版画』教材による美術館での体験型プログラムの実践とその可能性

犬童 昭久（九州ルーテル学院大学）

第2分科会 司会：

①

スーパー戦隊を題材とした和文化教育の実践

出村 雅実（わせがく高等学校）

②

高等学校 総合的な学習における和文化教育の実践例

三枝 修（元兵庫県立姫路南高等学校）

③

天皇と日本文化—教材開発の視点から—

森 一郎（元神戸市立高等学校教諭）

④

日本型ウェルビーイングを視点としたプロジェクト型学習

及川 直人（八街市立朝陽小学校/千葉大学委託研究生）

⑤

日本型ウェルビーイングと和文化教育

高橋 史朗（高橋史朗塾）

第3分科会 司会：

①

和文化を生かした地域教材の活用—祇園祭を題材に—

長瀬 拓也（同志社小学校）

②

校庭の樹木を活用した和文化教育

向井 隆盛（行田市立南河原小学校）

③

地域の文化資本に着目した小学校社会科授業開発研究

末永琢也（高知大学）

④

小学校社会科教科書における伝統文化の意味づけの分析

佐藤 正寿（東北学院大学）

⑤

小学校社会科地域学習と「文化価値形成」を図る和文化教育—「地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。」—

小林 隆（佛教大学）

第4分科会 司会：

①

地域の郷土芸能について

夏目 佳子（東海学園大学）

②

地域活性生涯学習のための伝統文化活用

沖 けい（西宮能楽研究会）/関屋 俊彦（関大名誉教授）

③

紙から空間へ、そして身体へ、書とテクノロジーの融和—2025 大阪・関西万博公開デモについて—

福井淳哉（帝京大学）/河島 由弥（川村学園女子大学）

④

中学校道徳教科書における日本の伝統と文化 ～使用されている題材をもとに～

吉田 雅子（大阪体育大学）

⑤

子ども達と地域の歴史的な遺産継承に「できること」を思索する場づくり—江差町での日本遺産普及に向けたプロモーションフラグシップ制作事業の取り組みを通して—

橋本 忠和（園田学園大学）

第5分科会 司会：

①

和文化教育のジレンマの再考—武道におけるジェンダー課題に注目して—

竹繁 諒真（武庫川女子大学 社会情報学部）

②

和文化教育の課題と展望

上田 真由/松岡 靖（京都女子大学）

③

「家紋」をテーマとした教科横断的授業の実践

山田 凜/表 真美（京都女子大学）

④

大学における伝統工芸を生かした社会貢献—広島大学の実例から—

伊藤 奈保子（広島大学人間社会科学研究）

⑤

グローバル文化シンボルとしての「鯉のぼり」プロジェクトの活動と意義 —仏蘭西のクレマンソー館と独逸のマールバッハ小学校での「鯉のぼり」活動を事例に—

中村 哲（兵庫教育大学名誉教授）

第6分科会 司会：

①

学校教育における茶道の位置づけに関する一考察 —各教科の現状とその課題—

奥中 淳未（関西学院大学 言語コミュニケーション文化研究科）

②

学校茶道実技に花月の式を

小室 順子（平安女学院大学伝統文化研究センター）

③

奥田正造の茶道による学校教育

杉谷 朱美（平安女学院大学伝統文化研究センター）

④

「社中」という教育共同体—茶道における修養と思想の構造—

関根 和夫（立命館大学先端総合学術研究科）

⑤

アメリカにおける華道の普及と課題

蔵重 伸（華道家元池坊囑託講師）

(2) 基調講演《 13:20～14:30 》  
グローバル化する日本文化の魅力と教育課題—京都からの発信—  
池坊 専好（池坊次期家元）

(3) シンポジウム《 14:40～16:50 》  
グローバル化する日本文化の魅力と教育課題—京都からの発信—  
司 会：谷本 寛文（京都光華女子大学/副学長）  
岡崎 均（大阪体育大学/和文化教育学会理事長）  
シンポジウム講演者：池坊 専好（池坊次期家元）  
シンポジスト：河村 晴久（能楽師 観世流 シテ方）  
ランディー・チャネル（裏千家教授）  
北村 昌江（学会員/ランゲージ・アーツ研究&アカデミー）  
コメンテーター：梶田 叡一（前和文化教育学会会長/兵庫教育大学名誉教授）  
中村 哲（和文化教育学会会長/兵庫教育大学名誉教授）

## 7. 大会 WEB サイト

「第 22 回和文化教育全国大会（京都大会）」の「第 22 回大会サイト  
(<https://www.koka.ac.jp/~koka22/>)」を開設します。本サイトの URL と QR コード  
から大会内容の閲覧と大会参加の申込みが可能です。

QR コード

## 8. 参加申込み方法

大会参加希望の方は、上記 WEB サイトからの申込みをお願いします。  
申込みと同時に下記項目 9・10 をご確認ください、参加費の送金をお願い致します。  
なお、入金後の返金はできませんので、ご了承ください。

## 9. 参 加 費

会員・会員外：3,000 円（事前申込みの場合 2,500 円）  
一般参加者：1,000 円  
学部学生：無料  
※プロジェクト支援：1 口 500 円（口数に応じて鯉のぼりを進呈します）

<https://www.koka.ac.jp/~koka22/>

## 10. 参加費等の送金先

大会申込みとは別に、参加費を以下の銀行講座に振込をお願いします。  
《銀行振込口座》

（参加費の振込は、必ず個人名をお願いします。）  
なお、学会費は別の郵便振込口座への送金となります。

## 11. 大会連絡先

第 22 回和文化教育全国大会（京都大会）実行委員会事務局

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町 38 京都光華女子大学 谷本 寛文

メールアドレス： h-tanimoto@mail.koka.ac.jp

「鯉のぼり」等の写真